

(有)環

代表取締役社長

PICK UP

THE PERSON

後藤 徹

KEY WORD

環

— tsunagari —

尊敬する先輩からの打診を受けて、『環』の代表に就任した後藤社長。自ら現場に出てスタッフの意識改革に取り組み、「人と人との環（つながり）」の大切さを伝え続けてきた。そんな社長の努力が実ってか、今では風通しの良い社風となり、同時に患者さん方からの信頼も着実に蓄積している。現在は、福祉施設の入居者向けの薬剤管理や投薬指導等も手掛けるなど、業容を広げ、地域医療を支える存在として存在感を増している同社。その根底にあるのは、人を思い、そのつながりを大切にしている優しい心だ。



「患者さん方と前向きに向き合い、
支えられるかかりつけ薬局でありたい」



有限会社 環

URL : <https://an-chouzai.com>

an 調剤薬局 大分店

大分県大分市府内町2丁目3番30号
ヴィーナズビル 1F

an 調剤薬局 やまなみ店

大分県別府市南立石 241 番 18

an 調剤薬局 石だたみ

大分県中津市寺町 989 番地 2

人と人との環

(つながり)を大切に、信頼を築く調剤薬局

大分県下、大分市、別府市、中津市で3店舗の調剤薬局を運営している『環』。人と人とのつながり大切に、きめ細やかな心配りを心掛けている。また、高齢者施設の処方箋を一括して引き受けており、介護現場における服薬をサポートしているほか、今年には在宅専門の薬局もオープン予定だという。本日は、そんな同社の後藤社長のもとを、タレントのつまみ枝豆氏が訪問し、お話を伺った。

代表取締役社長

後藤 徹



大分県出身。薬学部を卒業後、一年間のドラッグストア勤務を経て調剤薬局に転職する。尊敬する先輩に声をかけられて別の調剤薬局に転職し、さらに経験を積んだ。その後、先輩からの打診で『環』の代表取締役社長に就任し、現在に至る。

――まずは、後藤社長の歩みから。何故薬剤師になろうと？

母が教育熱心な人で、学生時代はよく「勉強しなさい」と言われていました。将来を考えるようになると、資格を取得したいと思い、選んだのが薬学部だったのです。今思えば、母が勉強するように言ってくれて、良かったですね(笑)。卒業後は熊本県にあるドラッグストアで働き始めたのですが、新卒で入っていきなり店舗を一人で任ざられてしまいました。お客様からの質問などにも満足に答えられず、このままではいけないと退職して、今度は調剤薬局で経験を積むことにしました。その後、大学時代の先輩から声をかけられて、別の調剤薬局に転職。私は昔からその先輩のことを尊敬しており、6年ほどお世話になる中で、仕事に対する姿勢や考えなど、様々なことを学びました。今でも先輩のことは、師匠

うかをしっかりと吟味した上でお返事してほしいのです。場合によっては可能かもしれませんが、厳しかったとしても、「これは難しいのですが、こつちの方法なら可能です」と別のご提案ができるかもしれない。そうした積み重ねが、患者さんの信頼につながるのだと思います。

――前向きに患者さん方と向き合う、と。おっしゃる通りです。私自身、師匠をはじめとした多くの人とのつながりによって支えられてきました。つなごりの大切さを、スタッフの皆にも理解してほしかったのです。そうして少しずつ意識改革を進めていき、ホームページの開設時には「人とのつながり」をテーマに、スタッフにロゴを作ってもらいました。

――お花が円になっているロゴですね。素敵です。スタッフさん方も社長と同じ思いを持たれるようになったのでしょうか。

良いコミュニケーションは生まれてきていると思います。その中で、もしスタッフがアイデアを持ってきたら、まずはやってみよう、と言っています。会社としての方向性がありますが、基本的にやり方は何でも良いと思っています。大企業だと、例えば機械を導入するにしても、色々と手続きが必要になってくると思いますが、当社のような小さな会社は小回りが利くので、良いと思つたらすぐに動くことができます。それがスタッフのやり甲斐につながり、結果として患者さん方のためになれば何よりですね。

――地域医療を支えるかかりつけ薬局として、心強い存在だと思えます。

そうですね。たとえば解熱鎮痛剤一つとっても種類はたくさんあり

だと思っています。

――良縁に恵まれたわけだ。その後独立に至った経緯とは？

実は、独立も師匠に声をかけられてのことでした。両親の体調が思わしくなかったことから、地元・大分県に戻り、地元の調剤薬局で働くようになりまして。ある時、師匠から連絡があって、「社長やらんか?」と言われたのです。詳しく話を聞くと、『環』が「I&H」の傘下に加わることとなり、それに伴って新たに社長を務める人材を探していたとのことでした。私自身、いずれは独立したいと考えていたので、その申し出を受けることに。そうして、『環』の社長に就任した次第です。

――いざ社長になられてみて、いかがでしたか。

一番最初に感じたのは、意識改革の必要性でした。当時は、患者さん方やスタッフ同士のコミュニケーションも足りない状態。心がバラバラのように見えたのです。それで、私自身も現場に入って様子を観察しながら、改善点をスタッフに伝えるようにしました。例えば、患者さんから要望などを言われた時に、「無理です」と言うのはやめてほしい、と。たとえば難しい内容だったとしても、本当に無理なのかど

ますから、患者さん一人ひとりの症状や体質、過去の副作用の有無などをしっかりと伺って、適切な投薬指導を行っていききたいですね。薬剤の世界も日進月歩で、10年前の常識は現在の常識ではありません。病気が生まれる度に薬も生まれますし、法律も変わりますから、覚えることは膨大です。今でも日々勉強だと思っています。

――社長であれば、安心して相談できると思えます。最後に、今後の展望をお聞かせください。

在宅専門の薬局をオープン予定でして、現在準備を進めています。私は後7年で45歳になるので、それまでに調剤薬局を30店舗まで増やすことが目標です。大分県内だけに留まらず、同じ思いを持つ薬局さんがいらっしやれば、一緒に協力していきたいですね。そうして、皆様により良い医療を提供できるように尽力し続けていきます。また、次世代の方々に薬剤師の仕事を知っていただき、この仕事のやり甲斐や面白さを伝えていきたいですね。

Commemorative Photo



check Point

地域医療を支える存在として

▼『環』では調剤薬局の展開のほか、高齢者施設への訪問指導や入居者の薬の管理も行っている。施設に往診に来るドクターが出した処方箋をまとめて受け取り、一人ひとりにお薬カレンダーを作成。施設のスタッフはそのカレンダーにセットされたお薬を配るだけで良い、というものだ。

▼入居者の体調の変化があった時には相談に乗ることもあるそうで、先日も「(入居者が)眠れないらしく、どうしたら良いです

か」と連絡がきたとのこと。このように、施設の事情や入居者のことを理解した上で相談に乗ってもらえる薬局があると、施設の方としても心強いだろう。現在、同社では7カ所の施設、トータル200何十人もの入居者の薬の管理を行っているそうだ。

▼『環』のように、地域医療を陰から支えてくれている方々のお陰で、どれだけの人が救われているか。私たちの生活を守る、縁の下の力持ち的存在と言えるだろう。

つまみ枝豆 (タレント)

「対談中、こちらの言葉をしっかりと受け止めて丁寧に答えてくださる後藤社長のお姿に、『きっと多くの方に慕われているのだろうな』と思いました。患者さん方は、不安を抱えていらっしゃる方も多いと思いますが、社長のような方に対応していただければ安心でしょう。これからも、そんな真っ直ぐでお優しい社長のままでいてくださいね!」

